

令和 8 年度 第 2 回 副業人材活用セミナー 開催レポート

○日 時 令和 8 年 8 月 26 日（水） 14:30～16:00

○会 場 白河市立図書館 地域交流会議室 中会議室 1・2

○参加者 23 名

○ゲスト

- ・ 県内事業者：株式会社石森製作所 白河工場 吉田 浩 様
- ・ 副業人材：小野 浩太 様、善林 篤史 様

○内容

第 1 部

1. 事業説明
2. 副業人材活用の事例紹介
3. 副業人材ミニトーク

第 2 部

1. フリートーク・交流会

白河市立図書館にて、「副業人材活用セミナー」を開催しました。

本セミナーは、人口減少や人材不足が進む中で、県内事業者が外部人材の力をどのように取り入れ、自社の課題解決や新たな取組につなげていくことができるのかを学ぶ機会として実施されました。今回は、特に「採用強化」にもつながる副業人材の活用をテーマに、実際の支援事例や専門人材による具体的な取組や知見を紹介しました。また、参加者が副業人材や活用事業者へ直接相談できる交流会も設け、自社ならではの副業人材の活用方法を具体的に考える場となりました。

第 1 部では、事務局より「ふくしま×都市人材 共創マッチング事業」の概要と、副業人材を活用する際の事務局サポートについて説明しました。課題整理から募集原稿の作成、応募者との面談、契約調整、マッチング後の進行まで、事務局が伴走して支援する体制を紹介しました。また、今年度新たに設けられた宿泊費支援制度についても説明し、副業人材が現地を訪問することで、オンラインだけでは把握しきれない現場の状況や企業の魅力を理解し、よりの確に課題を捉えたうえで、課題解決につなげることを目的とした制度であることを紹介しました。

次に、実際に副業人材を活用した事例として、株式会社石森製作所 白河工場の取締役工場長 吉田浩様と、パンフレット制作を支援した副業人材の小野浩太様よりお話を伺いました。

石森製作所は、創業 77 年の歴史の中で培ってきた金属加工技術をもとに、半導体関連装置など複数の事業を展開しています。一方で、事業拡大に向けた人材確保が重要な課題となる中、従来の会社案内パンフレットは社内で作成しており、文章中心の構成となっていたことから、自社の事業内容や技術力、会社としての魅力を十分に伝えきれていない状況がありました。

そこで、事務局がヒアリングを行い、当初の「製品パンフレットを刷新したい」という相談から、採用活動における情報発信の課題を整理しました。その結果、①製品・企業紹介パンフレット、②採用パンフレット、③企業紹介動画の3つのプロジェクトとして案件化し、副業人材とのマッチングを進めました。マッチング後も、事務局が現地撮影への同行や制作打ち合わせへの同席などを行い、石森製作所と副業人材の間に入りながら伴走して支援しました。

今回、製品・企業紹介パンフレットの制作を支援した小野様は、UI/UX デザインの考え方を活かし、見た目を整えるだけでなく、読み手に情報が伝わりやすい構成を意識しながら制作を進めました。オンラインでのヒアリングやヒアリングシートを通じて石森製作所の強みや課題を整理し、同社が長年培ってきた技術力を伝えるため、設計図の要素をデザインに取り入れました。また、同社の誠実なものづくりの姿勢が伝わるよう、青色を基調としたデザインとするなど、企業らしさを表現する工夫を提案しました。

さらに、デザイン制作だけでなく、印刷用紙の選定に関する助言や、印刷会社へのデータ入稿まで一貫してサポートしました。

吉田様からは、「**副業人材を初めて活用したことで、これまで固定観念の中で企業アピールをしていたことに気づいた。小野様に協力いただいたことで、見せ方が大きく変わった**」とのお話がありました。また、小野様からは、「**オンラインで始まり、オンラインで完了した案件だったが、離れていてもスムーズに進行できることが分かった**」との振り返りがありました。

完成したパンフレットは、地元高校生向けの企業説明会で活用され、今後も会社説明会や中途採用の面接時など、石森製作所を知ってもらうためのツールとして継続的に活用される予定です。

今回の事例を通じて、副業人材の活用は、制作物の完成にとどまらず、事業者が自社の強みや魅力を改めて整理し、採用や情報発信のあり方を見直す機会にもなることが示されました。

続いて、採用から労務、評価制度設計まで幅広く携わる人事の専門家であり、県内事業者の採用課題解決にも携わる善林篤史様より、採用力強化に関するミニトークを行いました。

善林様からは、採用においては、求人票の条件面だけでなく、「誰に、何を、どのように伝えるのか」を整理するマーケティングの視点が重要であるとお話がありました。特に地方企業では、給与や福利厚生、未経験歓迎といった条件を打ち出すだけでは応募につながりにくく、会社の強みや働く魅力を、応募者が具体的にイメージできる形で伝える必要があることが紹介されました。

具体的な支援事例として、福島県内の建設事業者における採用ブランディングの取組が紹介されました。職種や待遇だけで訴求するのではなく、専門技術や地域のインフラを支える仕事としての価値、入社後のキャリア形成などを整理して発信することで、企業ならではの魅力を採用活動に反映していったとのことでした。

善林様のお話を通じて、採用においては、企業にとって当たり前になっている強みや魅力が、外部から見ると大きな価値になる場合があることが示されました。副業人材が第三者の視点で企業の特徴を整理し、採用市場に向けて正しく見せていくことで、求人票や採用サイト、説明会、面接、入社後の定着までをつなげて考えるきっかけとなりました。



第2部では、登壇者と参加事業者が直接話すことができる交流会を実施しました。小野様、善林様への専門的な質問に加え、吉田様には、実際に副業人材を活用した事業者側の視点についても相談できる時間としました。石森製作所の完成したパンフレットや、企業紹介動画につながる二次元バーコードも紹介され、実際の成果物を見ながら、副業人材の活用イメージを深める機会となりました。

参加者同士の名刺交換や情報交換も行われ、登壇者への個別相談だけでなく、他社の取組や共通する課題を共有する場にもなりました。第1部の事例紹介やミニトークを聞くだけでなく、実際に登壇者や他の事業者と話すことで、副業人材の活用をより身近に感じていただくことができました。



今回のセミナーを通じて、参加者にとって、副業人材の活用は単に業務を外部に委託するものではなく、自社の課題を整理し、採用や広報、会社の魅力発信を前に進めるための手段であることを具体的に知る機会となりました。特に、石森製作所と小野様の取組からは、外部人材の専門的なスキルや視点を取り入れることで、自社では気づきにくい強みや魅力を整理し、それをパンフレットという「伝わる形」に仕上げていく具体的なプロセスが紹介されました。また、善林様のミニトークからは、採用課題に対して外部人材がどのように関わり、企業の強みを採用につなげていくのかを学ぶことができました。

終了後の参加者アンケートでは、「**自社で解決できなそうな問題に直面した時でも早期解決に導いてくれる入り口が見つかった。**」、「**副業人材の活用について理解を深めた。**」などの感想をいただきました。

今後も事務局として、今回のセミナーで得られた気づきや参加者からの相談内容を踏まえながら、県内事業者の課題整理から副業人材とのマッチング、活用後の伴走支援まで、継続してサポートしてまいります。

以上